

小林 信一
筑波大学大学院ビジネス科学研究科・教授



「飛び立て！ポスドク」

講演概要

ポスドクは、我が国の研究活動を中心となって担っており、決してフリーターでもなければ、単純な研究労働力でもない。ポスドクは一つの立派なキャリアである。ポスドクは、いずれアカデミア、産業界等へ転身することを通じて、先端的知識を研究機関や民間へ移転する役目を負っている。そればかりでなく、現代においては、ポスドクは社会のさまざまな場所で、知識基盤社会のリード役として活躍することが期待されている。ポスドクには、新しい職業の開拓、新しい産業の開拓を担うパイオニアとなることが期待されている。

残念ながら、リーマン・ショック後の世界的な景気後退のため、短期的には民間部門のポスドク需要が低迷する傾向もみられる。一方で、大学、研究機関において先端的な研究活動を支える、さまざまな種類の研究支援スタッフの導入、拡充、研究資金配分機関における専門的スタッフの高度化といった機運も高まっている。これらも、ポスドクの新たな活躍の場となる可能性が高い。

このような情勢下で、ポスドクは、常に自分の価値を高めるよう努めるべきであり、自分自身のことを他人任せにするのではなく、自ら主体的に取り組むべきである。その際、以下の事項がポイントになるだろう。

- ・状況を冷静に分析せよ(各種のデータ・情報を自分自身で精査して、冷静に分析を。マクロな動向と個人の問題は別。風評に惑わされるな。)
- ・自分の専門領域だけでなく、幅広い知識・能力や社会性を身につけることにも自覚的に取り組み
- ・研究指導者、メンター、機関の専門部署、友人などに大いに頼れ(何でも自分一人で対処する必要はない)
- ・チャレンジ精神を忘れるな(研究は未知への挑戦。研究者はもともとチャレンジ精神が旺盛なはず。自らのキャリア開発においてもチャレンジ精神を)

講演者略歴

1986年筑波大学社会工学研究科(博士課程)単位取得退学ののち、東工大助手、電気通信大学助教授などを経て現職。2000年から3年間、文科省科学技術政策研究所第2研究グループ総括主任研究官を併任。現在、科学技術・学術審議会臨時委員、「科学技術関係人材のキャリアパス多様化促進事業」企画評価委員会座長、国立大学協会専門委員などを務める。専門は、科学技術政策、高等教育政策、科学技術論など。